



## Gateway クラスタの設定

この章では、Gateway のクラスタをセットアップする方法を説明します。内容は次のとおりです。

- 「ACE XML Gateway クラスタについて」 (P.6-1)
- 「クラスタの設定」 (P.6-2)
- 「クラスタの再起動」 (P.6-2)

### ACE XML Gateway クラスタについて

実稼動環境では、一般に ACE XML Gateway はクラスタ内に配置します。クラスタでは、複数の ACE XML Gateway が 1 つのポリシーをサーバートラフィックに適用します。クラスタ構成にすることで、システムのスケーラビリティと信頼性が向上します。クラスタにアプライアンスを必要に応じて追加し、ワークロードの増加に対応できます。

クラスタ内の全 ACE XML Gateway は、単一の Manager が管理します。Manager は 1 つの Gateway クラスタまたは複数クラスタの管理が可能で、それぞれに異なる Gateway ポリシーを適用できます。

システムでのクラスタの使用には、これらのアプライアンスのセットアップに関する考慮事項を検討する必要があります。

- いずれかの Gateway と Manager の間にファイアウォールが存在する場合は、ファイアウォールは次のポートでアプライアンス間の通信を許可する必要があります。
  - UDP トラフィックをポート 514 で許可します。ロギングを目的として、ACE XML Gateway はこのポートを経由して Syslog 情報を実行時に Manager に送信します。
  - TCP トラフィックをポート 8200 で許可します。Manager はこのポートを経由して設定情報を Gateway に送信します。



(注) システムで使用されるポートについての詳細は、「ACE XML Gateway および Manager が使用するポート」 (P.2-2) を参照してください。

- クラスタ内のすべてのアプライアンス (Manager を含む) のシステムクロックが同期されている必要があります。推奨されるとおり、NTP を使用してシステムクロックを維持する場合は、すべてのアプライアンスが同じ NTP サーバを使用する必要があります。



(注) 詳細については、「システムクロックの設定」 (P.5-9) を参照してください。

## クラスタの設定

ACE XML Gateway のクラスタをセットアップする手順は、次のとおりです。

- 
- ステップ 1** クラスタ内の各 ACE XML Gateway のアプライアンス シェルで、共通の Manager のアドレス（つまり、クラスタを管理する Manager のアドレス）を指定します。
- 詳細については、「Gateway モード」(P.5-7) を参照してください。
- ステップ 2** Manager をセットアップした後、Web コンソールにアクセスし、[Cluster Management] ページを使用して、この Manager で制御する Gateway を IP アドレスで設定します。
- 

詳細については、『Cisco ACE XML Gateway User Guide』のクラスタ管理情報を参照してください。

## クラスタの再起動

再起動が必要な場合にアプライアンス上のプロセスを再起動するように指示するプロンプトがアプライアンスのコンソール メニューに表示されます。場合によっては、クラスタのメンバーを手動で再起動する必要があります。

クラスタ システムを再起動する手順は、次のとおりです。

- 
- ステップ 1** クラスタを構成するすべてのアプライアンスで、プロセスをシャットダウンします。
- アプライアンス シェルの [Main Menu] から、[Manage Gateway Processes] > [Stop Gateway] の順に選択します。
- ステップ 2** 最初に Manager 上のプロセスを起動（または再起動）します。
- [Manage Gateway Processes] メニューから、[Start Manager] を選択します。
- ステップ 3** クラスタ内の各 Gateway アプライアンス上で、プロセスを起動します。
- [Manage Gateway Processes] メニューから、[Start Gateway] を選択します。
- 

詳細については、『Cisco ACE XML Gateway User Guide』を参照してください。